

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域の中でその人らしく暮らしていけることを支援する、事業所独自の理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。理念をヘルパー室に掲示し、各職員の名札裏にも明記し、常に意識付けをしている。また、行事への取り組みにも地域の方との交流も検討している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族へは毎月発行している平和苑だよりや運営推進会議報告書・家族会にて地域の中での暮らしのあり方について理解していただけるよう報告し、ご家族からも意見をいただいている。	○ 運営推進会議の参加者である「泉南市介護者の会」の代表者から、介護者の会との交流を提案されている。(入居者が家族会で披露する演劇を介護者の会でも発表してほしいとの申し入れあり)是非参加し、そこから地域との交流などにつなげていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あまりできていない。祭りのやぐらパレード時には、苑庭やトイレを提供している。	○ 7月29日に企画している花火大会には、今年初めてご近所の子供さんたちにも案内状を配布させていただき事を企画している。(昨年度、花火を見たように門から覗いておられたお子さんがおられたため)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	できていない。運営推進会議でも提案させていただき、市担当者から、校長・園長会にて、グループホームの理解を求め、子供達との交流についての提案をして頂いている段階。直接には行動できていない。	○ 昨年から企画しつつまだ実行できていないが、消防署との合同訓練では、消防署の協力も得て消火活動や救命処置等の指導を依頼し、地域の方へも案内をしていきたいと考えている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない。	○ 泉南市健康福祉部高齢障害介護課とも相談し、助言していただき考えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。昨年度の外部評価の結果は全職員が周知し、改善計画を作成し取り組んでいる。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の外部評価の結果を初回に公表し、当苑が抱える課題を毎回提案し、地域の皆様から意見を多数頂き、改善に向け一つずつ取り組んでいる。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者からの提案で、市担当者のグループホームでの研修を受け入れている。これにより、当苑の方針もより理解していただけ、苑側からも市職員へ相談等がしやすくなった。地域への交流という一番の課題を協働していきたいと考える。	○ 市担当者より、グループホーム事業所の研修会として、年3回ほどの意見交換会を検討中と伺っている。当苑としても、是非事例発表のような形式で開催して欲しいと依頼している。全職員に交代で参加させていきたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している	研修会にて周知、理解している。 現在対象者はいない。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修にて全職員、周知、徹底している。また、外部研修にも職員を参加させている。管理者は職員の心のケアにも配慮し、職員間でもいつでも助言できる環境づくりをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談をし、十分に利用者や家族の思いを傾聴し、説明をし、理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置いつでも投書していただけるようにしている。(現在までの投書は無し。)定期的に管理者が利用者へ不満など無いか、傾聴している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「平和苑だより」(写真入)を発行し暮らしぶりを紹介している。面会時には受診記録を提示し健康状態を報告している。お預り金は請求書送付時に領収書を貼付したご利用明細書を送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置いつでも投書していただけるようにしている。(現在までの投書は無し)家族会では必ずアンケート調査をし、苑へのご意見ご要望を伺っており、運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週木曜日にミニカンファレンスを開き、様々な意見や提案をし、全職員で取り組んでいく。毎日取り組み結果を記入し、翌週見直し、意見をまとめ、改善し全職員で取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の急変時や、家族対応など、必要な時間帯に職員の確保は出来ており、必ず職員間での話し合いや調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職については、明るい話題が多いので、入居者達も逆に頑張りなさいと励ましの言葉をかけて下さっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑外研修については、希望者には支援している。苑内研修は毎月実施し、全職員で介護技術・医療・認知症対応などの質の向上に努めている。	○ 実践者研修が大変充実している為、今後毎年職員を一人ずつ受講させていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○ 他グループホームと職員交換研修を考えており、すでに了承を得ている。 市担当者が、意見交換会を企画して下さるよう、是非全職員を交代で参加させ、サービスの質の向上に取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回自己チェックを実施。それに基づき面談をし、悩みや要望を聴いている。 ヘルパー室にて何でも話し合える環境作りに努力している。 毎週のミニカンファレンスにて業務改善やケア内容について職員から意見を聴き全職員で取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自目標を持ち勤務している。 介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得については苑全体で勉強会を持ち支援している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談にてじっくり傾聴し、他施設や他のサービス利用についても説明をすることもある。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらう事からはじめ、体験的に日中時間帯を過ごしていただいたりしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ずつの関わりを大事にし、本人の思いを傾聴し、共感し、共に支えあえる関係作りに努めている。また、利用者は人生の先輩であるという事を全職員が意識し、様々な事を教えて頂きながら、お互いが協働し和やかな生活が出来るよう場面作りや声掛けをしている。	
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生会に家族にも参加して頂き、共に喜びの場を共有していただいている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面談時に詳しく経緯を傾聴し、全職員が情報を共有しており、入居後にもより良い関係が築いていけるように支援している。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、馴染みの美容院や店に出かけている。電話も自由にかけただき、電話機の扱いがわからなければ支援している。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	必ず利用者に声かけをし、また、利用者同士の声の掛け合いの場面作りもし、利用者と共に家事やレクリエーション等を実施し、仲間意識もできてきている。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了が入院の場合はお見舞いをし、おつき合いはしてきた。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	隔月に実施している個別外出・受診希望・買物など個別に希望を伺っている。(日々のかかわりの中で思いを引き出すよう努めている。)本人の意思が確認できない場合は、家族からの助言を踏まえ本人の状態に合った生活や外出を支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に管理者と介護支援専門員とでかなり詳しく状況把握に努めている。情報は全職員が共有している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が意識して様々なかかわりを持ち、「何でも情報」として、個性や能力を引き出し、書きまとめ全職員で情報を共有している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。職員全員でカンファレンスや意見交換をし、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価すると共に、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。連携医療機関の看護師にも意見を聴いている。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・受診記録には必要な情報を記載し、全職員が必ず読むことを徹底している。心身の状態に合わせて、介護計画の見直しに活かしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	本人、家族の状況に応じて、 通院や送迎等必要な支援は 実施している。医療連携体制 を活かして入院の回避に努力 し、医療処置(点滴など)を受 けながらの生活の継続、早期 退院の支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、 民生委員やボランティア、警 察、消防、文化・教育機関等 と協力しながら支援している	運営推進会議に市担当者、民 生委員の方々の参加、ご協力 を頂き、助言・ご指導をいた だいている。	○ 幼稚園児・小学生との交流は していきたいと願っている。現 在その実現について模索中であ り、市担当者へも協力要請をし ている。 消防署との合同避難訓練をし たいと考えており、その際には 地域の方々にも参加していただ きたいと考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、 地域の他のケアマネジャーやサ ービス事業者と話し合い、他 のサービスを利用するための支 援をしている	必要性があれば、他のサービスの 活用を支援していく。現在ま では実例は無い。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、 権利擁護や総合的かつ長期的 なケアマネジメント等について、 地域包括支援センターと協働 している	必要性があれば、地域包括支援 センターと協働していきたい。 現在までは実例は無い。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望 を確認している。 連携医療機関の野上病院・高 松歯科により、毎週訪問診察 を受けている。他の医療機関 の場合はご家族による通院と なっているが、不可能な時は 職員が付き添いしている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要があれば専門医への受診・治療は職員も同行し、医師と直接相談・助言をしていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連携医療機関である野上病院の看護師が、日々のバイタルチェック・服薬管理をしてくださり、利用者の健康状態について、気軽に相談することができ、早期の受診・治療が可能である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ほぼ毎日見舞いにいき、励まし等の支援ができ、病状についても説明を聞くことができている。医師ともよく相談し、早期退院への支援ができていく。(医師も認知症患者であることよく理解され、認知症の進行、ADL低下を心配し、早期退院・または苑での通院治療など考慮していただく)		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」についての指針を作成し、苑が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。その上で事前意向確認書にて終末期のあり方について記載し、提出していただいている。	○	まだ全利用者に説明ができていない。できるだけ早期に説明をしていく考えである。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ対象となる利用者はいないため、看取りについての勉強会は、心構えや、家族の思いなど全般論についてしかできていない。	○	今後は「できること・できないこと」も具体的に見極め、看護師からも助言頂き勉強会を積み重ね、対応できるようにしていく考えである。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去がすべて入院であるため、必要な情報提供は行っている。 新入居の場合は、しばらくは場所の混乱が予想されるため、不安がないよう特にかかわりを強化している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけやかかわりにおいて、人格を尊重した対応や記録ができるよう、職員の意識向上を図っている。全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図っている。	○ 言葉かけについては、日々の暮らしの中で、ついついなれなれしくなりがちなので、毎週取組むミニカンファレンスなどで目標として取り上げ、意識して取組んでいけるようにしていく考えである。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できるだけ、希望を表せるようかかわり、自己決定ができるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりの体調や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。理容・美容は本人の望む店に同行している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいものなど希望を取り入れ献立を考えている。買い物、調理、盛り付けや片付けに至るまですべて利用者とともに各自の能力を引き出しつつ行っている。また、ともに食卓を囲み楽しく食事ができる雰囲気作りも大切にしている。前夜に翌日の献立を利用者に記入していただき、食事への楽しみをもてるよう話題作りに努めている。また、畑では連日きゅうり、オクラ、青じそなど収穫し、漬物などすぐに調理している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつはご希望を伺っているが、お酒は医師から止められており、タバコは規則上禁止している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、失敗の無いよう早めにトイレへの声かけ等の支援をしている。しかし、リハビリパンツの使用状況は昨年と変わらず。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	皆さんに入浴時間の希望を聞くが、夜の希望がほとんどであるため、隔日での夜間入浴と決めている。「面倒くさい」が理由で入浴を拒否される方が1名いらっしゃいますが、「大好きな歌の練習を一緒にしましょう」など対応にはそのつど工夫している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、ゆっくり起床されたり午睡されたりと休息の支援はできている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で、利用者の能力を引き出し、発揮してもらえよう仕事や作業を依頼し、感謝の言葉を伝えるようにしている。隔月に担当職員が個別外出に同行し、事前に利用者との企画し、外食・買い物・映画など楽しんでいただいている。また、様々な行事に向け、目標を持ち、共に準備を進めていくなど楽しみながら取り組んでいただいている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出時には利用者の希望や能力に合わせてお金の所持や使用について支援している。ただし、所持金については、すべてヘルパー室にて管理している。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「動きたくない」と座りきりの方が多いため、できるだけ、畑作業・買い物・散歩・苑庭でのおやつなど企画し、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう支援している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	隔月に担当職員が個別外出に同行し、事前に利用者との企画し、外食・買い物・映画など楽しんでいただいている。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を書いたりなど、個々の能力に応じて支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「ようこそお越しくださいました」という歓迎の気持ちで、職員も対応に配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう状況報告等楽しい会話に心がけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて全職員周知徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修会にも参加予定である。	○	研修会への参加(8月・9月・10月)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中時間帯、職員の見守りができている時は玄関を開放している。利用者が外出しそうな様子があれば、止めるのではなく、さりげなく声かけし一緒にいていくなど安全面には配慮して、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	できている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの病状・身体的能力・認知症症状・服薬について年1回勉強会をし、全職員が把握している（変更等あれば随時指導している）転倒については、利用者のADLに合わせて個別対応にて防止に取り組んでいる。火災については、年1回避難訓練を実施している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回勉強会にて訓練している。不安な職員については、随時指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年1回利用者と共に避難訓練を実施している。	○	消防署との合同訓練が実現した際には、地域の方々にも参加していただきたいと考えている。 職員からは、年2回の訓練は必要ではないかとの意見あり。職員の体制や入居者の状態が良ければ、是非実施していきたいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ADLの状況によりその都度家族には、起こり得るリスクについては説明している。転倒のおそれがある方については、居室の模様替えをしたり、居室内に安定した椅子などを置いていただき、手すり代わりにしてもらおうなど対応策を話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変を発見した際には、全職員に伝達ノートや口頭にて伝達し、様子観察をする、または状況により、すぐに連携医療機関である野上病院へ相談し、受診等の対応をしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	年1回勉強会にて服薬について、効能や、副作用等周知し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を意識し、腹部マッサージ・朝食後のトイレ誘導・下肢運動など積極的に取り組んでいる。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回チェックしており、摂取量少なく心配な方には、できるだけ楽しい食事の雰囲気の中、さりげない食事介助に努め、たとえ一口でも多く召し上がっていただけるよう努めている。水分量は、全員きちんと一日の水分量を調査し、全職員が把握し、水分摂取の支援をしている。むせがあったり、水分を取りづらい方には、お茶ゼリーを常備し提供している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、予防・対応を実行している。手洗い・うがいの徹底・手すりやトイレ内の塩素消毒等、最善の注意を払い予防に努めている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は熱湯処理、または、塩素消毒を毎晩実施している。食材は、必要数のみを前日購入、魚は当日購入している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに花や観葉植物を植え、親しみやすい環境にしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るようにしている。皆さんが大好きな唱歌や懐メロをかけてみたりと工夫している。よもぎを摘んで草もち作り、新生姜の甘酢漬、彼岸団子、お月見団子、餅つきなど、季節の行事も大切にしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ出入り口に椅子2脚とミニテーブルを設置、ちょっとした間仕切りに手作りの和風のれんをかけ独りになれる空間を設けている。他ユニットの方とベランダを通して行き来され、その場所で和やかに談話されている。また、廊下での歩行訓練中の休息場所にもなっている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力で、アルバムや使い慣れたもの、馴染みの物を居室に置いていただき、過ごしやすいように工夫していただいている。また、ADLに応じて危険のないようご家族と相談の上、随時家具の配置換えをしている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に換気扇を設置し、常時稼働している。温度調節には慎重に設定している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、居室内歩行不安定な方には、安定した椅子を設置したり、タンス・ベッド・テーブルの配置を工夫して、手すりがわりになるようにしている。夜間のみポータブルトイレを設置することで、安全に自立排泄できている方も数名あり。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分からない方には、カーテンを少し開けて便器が見えるよう配慮したり、集団が苦手な、鏡を見て会話される方には鏡を増やしたり、お子様方の写真を飾り、いつも家族のことを忘れずにおれる環境設定等に創意工夫している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭にベンチを置き、屋外でのレクリエーションやおやつ、畑作業など楽しみながら活動できている。ベランダにもベンチを設置している。ベランダ出入り口の開閉は自由なので、生き抜きに出られたり、自主的に洗濯物の取り込みなどされている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目 (和楽)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当苑も開設より3年が経過し、認知症による不穏行動も原因を探り、多方面からかわかることで、だいたい落ち着いてきている。現段階では生活リハビリを重視し、ADLの低下防止に努めている。できるだけ屋外に出る機会を作っている。光に当たり、季節の風を感じ、畑の作物や四季の草花を愛で五感を刺激し、体中を活性化することに努めている。寒い日、暑い日、雨の日など外出できない時は、レクリエーションや朗読・足上げなどの体操にて活発に活動していただいている。また、食事前には嚥下促進のために健口体操や発語訓練や簡単な手指体操などを必ず実施することで、食事中の大きなむせや咳き込みがずいぶん減ってきた。歌声と笑い声が絶えない、どなたも楽しんでいただけるかわりの中、入居者様の個性や能力を引き出し、生きる意欲につながるよう努めている。個別外出では、担当者がじっくりと入居者の思いを受け止め、楽しみごとが増え、できないとあきらめていたことができるという希望をもっていたいただけるような支援をしている。それら日々入居者様方のいい表情などをご家族様方にもご報告するべく、毎月平和苑だより(写真入り)を発行している。これは、ご家族様方には好評の様子で、我々職員にとってもその時々思いが詰まった記録となっている。運営推進会議でも公表し、日々の生活ぶりの報告書代わりになっている。

和楽では9月の家族会に向けて、昨年まで継続してきたようにお芝居の練習に取り組んでいる。和楽屋一座の演目は「花咲かばあさん」である。各入居者の性格に合った役を皆で相談して決定。セリフや大道具・小道具作りも皆で考え作り上げている。日々の生活の「花咲かばあさん」が浸透しており、歌もたえない。